三重県議会議員
いしがき　ともや
石垣 智矢
県政活動報告

TOMO-NO-WA
智の輪
～ 地域の輪が次の時代を創る ～

Vol.7　2024年（令和6年）　冬号

編集・発行責任者 / 石垣智矢　住所 / 三重県員弁郡東員町北大社801
TEL・FAX / 0594-41-2477　E-mail / toinman1105@gmail.com



一見三重県知事に「今後の県政運営等に関する申し入れ」を行いました！

一見三重県知事に対して、令和6年県政レポートに基づく今後の県政運営等に関する申し入れを行いました。

1、人材確保対策について

各業種で抱える課題や担い手のニーズを的確に把握し、不断の検証を行いながら取り組みを展開するとともに、単なる人材確保という視点にとどまることなく、多様な視点から必要な取り組みを展開すること。あわせて、県職員の人材確保・育成の視点を持ちながら取り組みを進めること。

2、財政運営について

⑴ 資金調達にあたっては、調達コストの低下を図り、中長期的な効果も見据えた公債費等の負担抑制に努めること。
⑵ 公共施設の長寿命化を計画的に実施するとともに、今後発生する施設の建て替えに備え、将来世代に過度な負担が生じないよう、公共施設等総合管理基金等を活用しながら安定的な財源確保に努めること。
⑶ 歳出歳入両面からの取り組みにより経常的な支出の抑制と多様な歳入確保策を引き続き進め、メリハリある予算編成に努めること。

私からは、政策企画雇用経済観光常任委員長の立場から申し入れを行いました。

・地域の外からの視点を盛り込んだ戦略的な観光誘客に取り組み、大阪・関西万博を契機とした関西圏での更なる魅力発信事業の推進を図るとともに、若者の就労支援や県内定着促進、またものづくり産業振興や建設業・運輸業等の2024年問題への対応など、喫緊の課題についても迅速かつ的確に取り組むよう努めること。





今後も様々な関係する方々からご意見を頂戴し、委員会で議論を深めながら更なる事業推進に繋げてまいります。

三重県議会「みえ高校生県議会」を開催しました！！ 8月21日



8月の夏休み期間を利用して、三重県議会議事堂にて「みえ高校生県議会」を開催しました。県内11校34名の生徒の皆さんにご参加いただき、様々な県政の課題に対して質問をいただきました。

私が常任委員長を務める政策企画雇用経済観光常任委員会には、津田学園高校さんから

・バリアフリー観光促進について
・心のバリアフリーに関する取り組み促進について

具体的なご提案をいただきました。

ご参加いただいた生徒の皆さん、素晴らしいご意見・ご提案をありがとうございました。

※高校生の質問は、発言内容をそのまま記載しています

バリアフリー観光促進について



問　私の祖父は、脳出血になってから右半身に麻痺が残り、外出には車椅子が必要です。旅行に行くのにも不便がありますが、家族でよく伊勢志摩に行きます。なぜなら、伊勢志摩はバリアフリーの環境が整っており、障がいのある祖父も気兼ねなく観光ができます。バリアフリーマップの配布や障害者用トイレなどの情報があり、ホテルや施設も非常に利用しやすいです。
何より伊勢志摩が好きなのは、町全体でバリアフリーの取り組みを行っているため、障がいがあっても温かく迎え入れていただける雰囲気があり、安心して楽しめます。
歴史が深く、豊かな自然に囲まれた素晴らしい三重の町並みを、ぜひ県外や海外、障がいのあるなしにかかわらず、全ての方々にこのような取り組みを県内全域に広め、魅力的な三重県に観光に来ていただきたいと思っています。
三重県では、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携して様々なバリアフリーに関する活動を発信しており、体の不自由な方が快適に過ごせるような工夫がなされています。
また三重県では、観光施設における心のバリアフリー認定制度への登録促進に取り組んでいます。
車椅子トイレやバリアフリールームなどの設備の有無ではなく、車椅子の貸出しや、視覚・聴覚障害者への対応など、ソフト面での取り組みが認定の基準となり、バリアフリーと比べてより繊細な配慮が必要です。
三重県全体としての観光施設におけるバリアフリー導入の進捗状況はいかがでしょうか。ご答弁をお願いします。

答　**石垣智矢　政策企画雇用経済観光常任委員長**
三重県が一生に一度は訪れたい地として発展を遂げてきた背景には、訪御師（おんし）や街道沿いの先人たちの温かい手助けのお陰だと言われています。先人のおもてなしの心を継承し、障がい者のみならず、誰にとっても優しいまちづくりにつながるよう、三重県では平成25年に「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」を行うなど、バリアフリー観光を推進しています。



障がいの種類や程度はそれぞれであり、また高齢者やベビーカーを押している方などでもバリアの捉え方が違います。
本県では、段差やスロープなどの設置の有無によってバリアフリーの基準を決めるのではなく、旅行者一人ひとりの状況やご本人の意思によって決める「パーソナルバリアフリー基準」という考え方に基づいて情報発信等に取り組んでいます。
加えて、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携し、県内380か所ほどの宿泊施設や観光施設のバリアフリー対応情報、公衆トイレ等のバリアに関する情報もそのまま発信しています。
他にも「観光施設における心のバリアフリー認定制度」への登録促進における研修会の開催にも取り組んでおり、現在100の県内宿泊施設などが認定を受けています。
これらの取り組みを通じて、誰もが安心して訪問できる魅力ある観光地づくりを進めていきます。

心のバリアフリーに関する取り組み促進について

問　私たちから具体的なバリアフリーの方法として、温泉での入浴着、使い切り入浴着の普及啓発・販売の推進を提案します。
温泉はタオルなどをつけず、裸で入るものという慣習がありますが、入浴着は体を隠したままで湯舟につかることができます。海外では、温泉はスタンダードではないところも多く、裸に抵抗のある方々も多いと思います。
また乳がん等の術後の痕がある方なども安心して入浴でき、入浴時の選択肢を広げることにも繋がります。
他の自治体や宿泊施設でも導入事例が増えてきており、温泉施設も数多くある三重県だからこそ、心のバリアフリーの取り組みの中に、使い切り入浴着の普及啓発・販売の推進県として率先して取り組んではいかがでしょうか。

答　**石垣智矢　政策企画雇用経済観光常任委員長**
三重県議会では、県が進めていく観光地づくりの大きな方針である「三重県観光振興基本計画」について昨年度末に議決を行い、更なる観光促進のために力を注いでいます。
今後、この計画に基づいてあらゆる人々の旅の実現を目指す「パーソナルバリアフリー基準」の活用や、様々な心身の特性や考え方を持つ人々の相互理解や支えあいを進めるために「心のバリアフリー」の意識を向上させることで、障がい者や高齢者などが安心して訪れることのできるバリアフリーの観光地づくりを推進していきます。
また今回ご提案をいただいた「使い切り入浴着」も、障がい者や高齢者だけでなく、全ての方が心から楽しめる取り組みと考えます。常任委員会でも共有し、今後の議論に活かしていきたいと思います。
最後に、今回皆さんから観光地づくりについて重要な提案をいただきました。
本日ご参加の高校生の皆さんには、あらためて三重の魅力を見て、触れて、感じていただき、本日のような課題を提起していただいたり、ご自身のSNSなどで三重の魅力発信に貢献いただくなど、これからも共に素晴らしい観光地づくりを盛り上げていきましょう！



高校生県議会でいただいたご意見をもとに、常任委員会で参考人招致を行いました！

参考人：NPO法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
事務局長 野口 あゆみ さま
「伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの活動について」



いなべ市遺族会と三重県との意見交換会を開催



いなべ市遺族会の先進的な取り組みについてお話をいただくとともに、遺族会員の高齢化や地域慰霊碑の安全確保の問題など、地域遺族会の抱える課題について意見交換を行いました。

令和７年度は戦後80年を迎えます。国・県・市町が一体となり、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に繋いでいけるよう、更なる取り組みに繋げて参ります。

（同選挙区の日沖正信県議会議員にもご出席をいただきました）

今年度開通予定の「（仮称）北勢インターチェンジ」の名称が「いなべインターチェンジ」に変更されました！



今年度、いなべ市役所前に開通を予定している東海環状自動車道「（仮称）北勢インターチェンジ」の名称が「いなべインターチェンジ」に変更されました。

大安IC－いなべIC間6.6kmが開通した後には、いなべIC－養老ICまでの最終区間が令和８年度開通に向けて建設が進んでいます。

東員町三和地区を流れる養父川および三狐子川にて、要望していた堆積土砂の撤去が11月から行われることとなりました！

三重県桑名建設事務所および東員町建設課立ち会いのもと、両河川の堆積土砂に関する今後の対応について協議し、今年11月より堆積土砂の撤去を行うことが決定しました。

特に三狐子川は土砂の堆積が急激に進み、田畑への冠水が繰り返し発生しています。5年前には豪雨により川の水があふれ、住宅の浸水被害も発生しているため、引き続き地域住民の安心・安全のために声をあげてまいります。



土砂が堆積した三狐子川の様子

国道421号大安I.Cアクセス道路において、要望していた横断歩道ならびに手押し式信号機が設置されることとなりました！

いなべ市員弁町内に新設されるこの道路は、大安I.Cへのアクセス性向上に大きな効果をもたらす道路であり、員弁川を渡河するいなべ大橋がかかることで渋滞緩和にも期待が寄せられています。しかし、800メートル区間に横断歩道が一つもないことや交通量増加による安全対策など、地域から安全確保に関する様々な要望が寄せられておりました。この度、横断歩道と手押し式信号機が設置されることにより、近隣の小中学校の通学路としても安全性が保たれる形となります。他にもこの道路に関する様々な要望を自治会や地域住民の方々からいただいております。引き続き、地域の皆さんにとっても有意義な道路となるよう要望活動を続けて参ります。



信号機が設置される国道421号員弁町内の交差点

常任委員会での県内調査

◆(株)三十三総研 訪問

（四日市市）7月19日

三十三総研株式会社では、地域経済のさらなる発展に向けた次世代の企業経営者の育成や事業継承支援、市町と連携したガストロノミーツーリズムの取り組みについて調査を行いました。



◆伊勢市役所 訪問

（伊勢市）7月19日

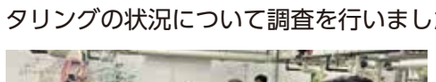
伊勢市役所では、観光地の危機管理や渋滞・混雑緩和の対策、パークアンドバスライドや次期式年遷宮に向けた取り組みを含めた観光振興についてお聞きしました。



◆三重大学水産実験所 訪問

（鳥羽市）7月25日

三重大学水産実験所では、地域と連携した研究活動の状況をお聞きし、ブルーカーボンの活用に向けた大型藻類の養殖技術や海の環境・生体モニタリングの状況について調査を行いました。





◆井村屋グループ 訪問

（津市）7月25日

井村屋グループ株式会社は、女性活躍推進や働き方改革等の先進企業として、社内託児所の設置、男性の育休取得や女性の管理職比率向上など、多様な力を活かすための働きやすい環境づくりについて調査を行いました。



夏のオープンスクールとして「子ども体験学習会」を開催!!





放課後子ども教室「ほくせい」さんの夏のオープンスクールとして、子どもたちに地域の文化や社会の成り立ちなどを「体験する」という形で、員弁ライオンズクラブ、東員町商工会青年部共催のもと開催しました。

神社参拝や境内の清掃活動、渡り鳥「アオバズク」の観察や絵馬の色付けなどに挑戦し、また昼食は非常食カレー（冷たいカレー）をみんなで食べ、災害時に自分でご飯が作れること、日頃から備えておくことの大切さを体験していただきました。

一度「体験したことがある」というのが、子どもたちの自信になり大きな力になります。

子どもたちにとっても、あらためて故郷を好きになる夏の思い出となれば幸いです。

ごあいさつ

早いもので令和六年も残すところ1ヶ月となりました。この一年も、地域の皆さまから多大なるご支援をいただきましたこと、あらためて御礼を申し上げます。

令和六年は、元日に発生した能登半島地震により多くの命が失われました。

この地域においても、南海トラフ地震をはじめとする自然災害はいつやってくるか分かりません。県民の命を守るための災害対策・減災対策に全力を注いでまいります。

また、本県では今年度に「三重県子ども条例」の改正や「三重県子ども計画（仮称）」の策定を進めています。いじめや不登校、児童虐待相談対応件数が過去最多になるなど、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。子どもたちが自分らしく地域でのびのびと成長できるよう、引き続き子ども・子育て支援にも取り組む所存です。

他にも、県内企業における人材不足等の悲痛な声を受けて、今年度新たに「人材確保対策推進方針（仮称）」の策定を進めています。

地域の中小企業の皆様からも、各業種における様々な現状や課題も聞かせていただいております。

持続可能な事業経営や働きやすい環境づくりに繋げるためにも、産学官が連携して人材確保対策を進めてまいります。

引き続き、より一層のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

石垣　智矢

お気軽にお問い合せ下さい

三重県議会議員 石垣 智矢（ともや）事務所

〒511-0257 三重県員弁郡東員町北大社801番地

TEL/FAX：0594-41-2477　E-mail：toinman1105@gmail.com

ホームページ　Facebook　SHIYUANTOMOYA インスタ